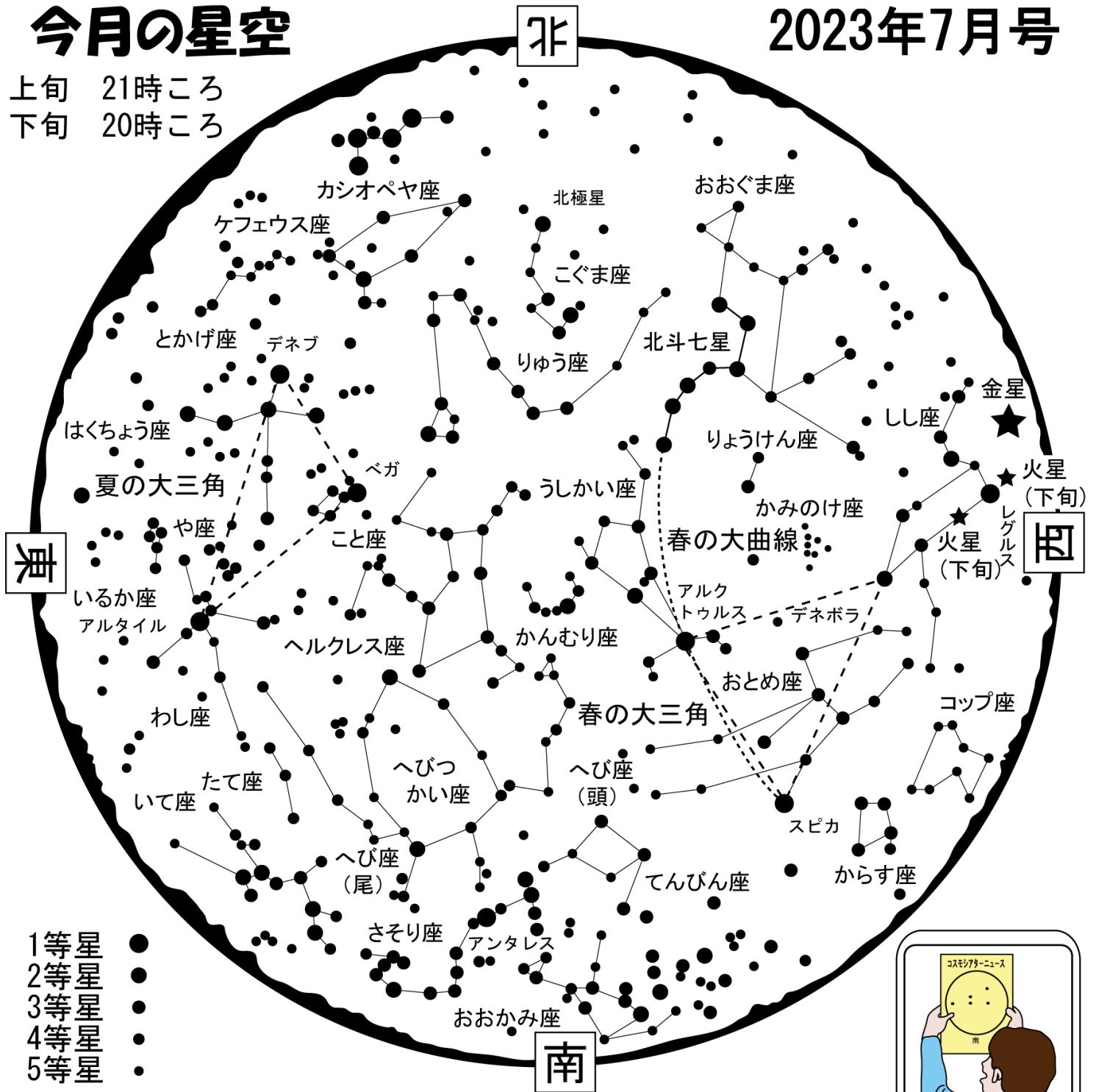


コスモシアターニュース

今月の星空

2023年7月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ

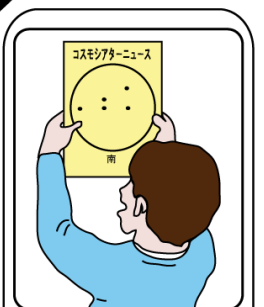


今月の惑星

- 水星：下旬の夕方、西の低い空に見えます。明るさは0等星です。
- 金星：25日ころまで、西の空に見えます。明るさは-4.5等星です。
- 火星：夕方、西の空に見え、22時ころには、沈みます。明るさは1.5等星です。
- 木星：明け方前、東の空に見えます。明るさは-2等星です。
- 土星：真夜中すぎ、南東の空に見えます。明るさは1等星です。

今月の月の満ち欠け

満月：3日(月) 下弦：10日(月) 新月：18日(火) 上弦：26日(水)



自分の向いている方向を下にして、見てください

6日(木)、深夜の東の空で、月と土星が並んで輝く

6日(木)の深夜の23時前、ほぼ半分に欠けた月が東の空に昇ってきます。そして、月のすぐ左側に、明るめの星も並んで昇ってきます。この星が土星です。普通の1等星ですので、月が明るくあまり目立たないかもしれません。その後、7日の午前0時ころには高さが高くなり、見やすくなります。この接近の見ごろは、7日の未明から、明け方前になります。

10日(月)、夕方西の空で、火星としし座のレグルスが並んで輝く

夕方20時ころ、宵の明星・金星が明るく輝いています。そして、空が暗くなる20時30分ころ、金星の左上を見ると、同じくらいの明るさの星が、仲良く並んでいるのが分かるでしょう。このうち、右側のオレンジ色の星は火星。左側の白い星がしし座のレグルスになります。この二つは、1等星と2等星の間の明るさで、肉眼で見えるのですが、金星に比べるとかなり暗く感じます。なお、金星と火星の間隔はおおよそ、親指1本ぐらいの間隔になります。また、火星とレグルスの間隔は、親指の爪の大きさほどで、かなり接近しています。なお、この接近は前後数日続きます。10日前後の天気の良い日にご覧ください。

12日(水)、明け方の東の空で、月と木星が並んで輝く

12日(水)の午前1時ころ、東の空に半分より少し細い月が昇ってきます。そして、この月の少し下を見ると、明るい星が輝いているのが分かるでしょう。この星が木星です。木星は-2等星で、普通の1等星の10倍以上明るいので、大変目につくでしょう。なお、時間がたつと空高くなってきます。見ごろは、12日の明け方前の、午前4時ころになります。

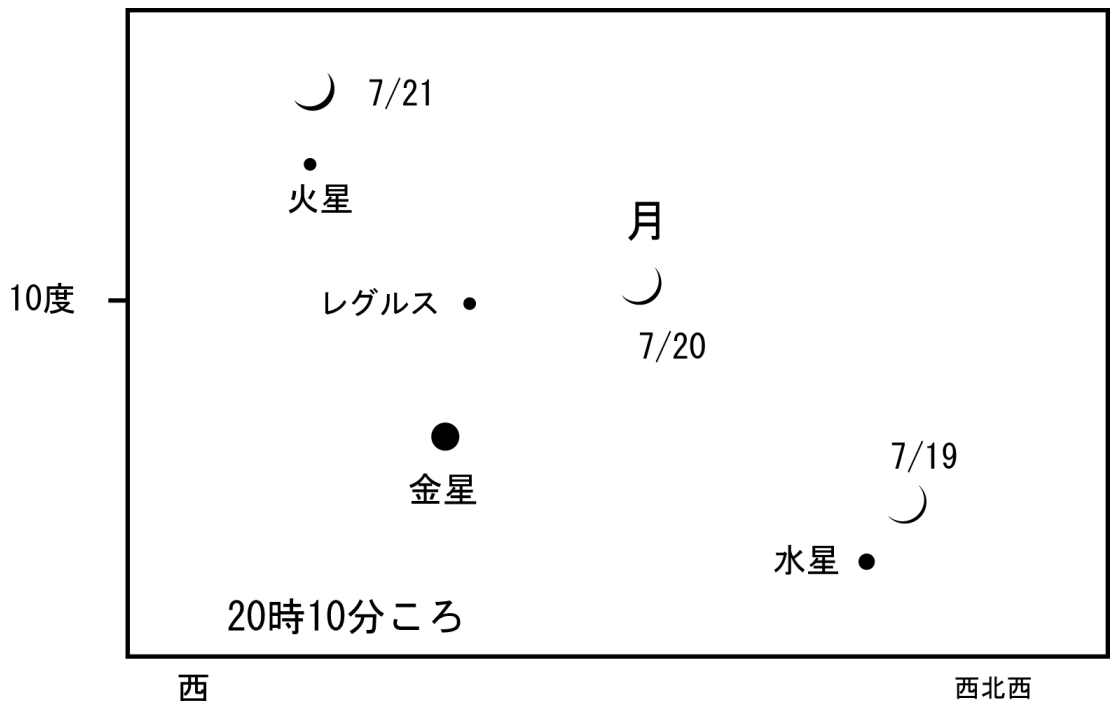
19日(水)~21日(金)、夕方の西の空で、月と水星、金星、火星が並んで輝く

19日(水)の20時すぎ、西の空に、たいへん細い月が輝きます。ただし、高さが低いので、地平線までに障害物がないところでない、見つけにくいかもしれません。もし月が見えたら、すぐ左下に、水星が見つかるでしょう。

そして、20日(木)になると、月の高さが高くなり、月の左下の金星と並んだ姿が目につくでしょう。

さらに、21日(金)は、月が火星の上に移動していきます。火星は、金星に比べるとかなり暗いので、注意深く探してください。

このように、月は1日たつと場所がかなり変化します。天気が良ければ、3日連続で見るといいでしょう。また、かなり高さが低いので、西方向の見晴らしがいいところで、ご覧ください。



天の川を見よう

7月~8月は天の川が最も見やすい時期です。天の川は、雲のようにぼんやりし、街の明かりがあると見えなくなってしまいます。また、月が輝いている時も見えません。今月は、18日が新月ですので、この前後1週間程度が見ごろとなります。また、見やすい時間は、21時以降で、真夜中ころまで続きます。

人間の目は暗い所に行くと、すぐには暗闇に慣れません。ですから、明るい部屋の中から急に外に出ても、天の川が見えないのです。最低でも5分くらいは、夜空を眺めて下さい。

右の図は、7月中旬の22時ころの様子です。雲のようにぼんやりとしたものが天の川です。実際の天の川は、南の空にある部分が一番明るく見えます。ちょうどさそり座のしっぽ方向です。そして、天の川をさかのぼって頭上を見ると、夏の大三角があります。

